

子どもの

生活習慣病を考えよう

平成9年度から始まった「すくすく5歳児健康診査」も6年目を迎え、今まで582人の子どもたちが血液検査等を受けました。平成14年度の結果をあわせ、過去6年間の健診データを分析しましたのでご覧ください。

平成14年度の傾向

表1・グラフ1のとおり生活習慣病予備軍(問題群)は、ここ数年減少傾向にあります。特に平成14年度については、問題群が26.6%と初めて30%を切る一番よい結果でした。しかし中性脂肪・動脈硬化指数・HDLコレステロールの異常者がそれぞれ9.4%とまだ

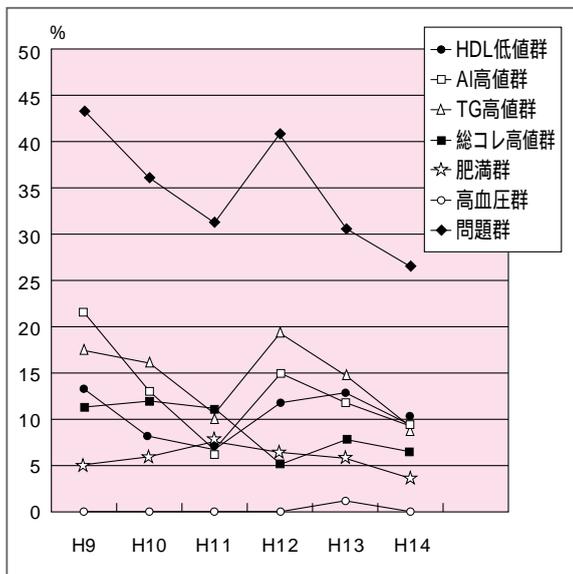
まだ高値であるといえます。

脈硬化指数・HDLコレステロールの異常者がそれぞれ9.4%とまだ

表1
平成14年度と過去6年間の血液検査等結果

項目	平成14年度	過去6年間
検査実施人数	109人	582人
1つでも異常を認めた者(問題群)	26.6%	34.7%
肥満度 20%以上	3.7%	5.7%
最高血圧 130mm Hg以上	0%	0.17%
総コレステロール 200mg/dl以上	6.6%	9.1%
総コレステロール 110mg/dl未満	0%	0.17%
HDLコレステロール 40mg/dl未満	9.4%	10.5%
中性脂肪 150mg/dl以上	9.4%	14.7%
動脈硬化指数 3.0以上	9.4%	13.1%

グラフ1
5歳児健診6年間の結果



肥満の親子関係

明和町における過去6年間の健診データの結果から、子どもたちの肥満は親子関係と密接な関係があることが分かりました。

表2は、自己申告による家族の太りやすい体質の記述の中で、父親・母親・両親と記入があった群と記入がなかった一般群のそれぞれ子どもたちの肥満度を集計した結果です。

表2の平均のとおり父親が肥満である幼児は肥満度の平均が1.66%、母親が肥満である幼児は3.1%、両親が肥満である幼児は8.28%、一般の幼児はマイナス1.67%で両親が肥満である子どもたちは、肥満度が高い、つまり太りやすいといえ、母親の肥満は父親以上に子どもたちに影響することが分かりました。

